

第75回日本細胞生物学会「男女共同参画・若手育成ランチョンセミナー」アンケート結果 (集計：大澤志津江)

(1) 今回の企画をどのように知ったか		(%)
1. 大会要旨集	10	32.3%
2. 会場でのお知らせ	2	6.5%
3. ホームページ	3	9.7%
4. 知人からの紹介	9	29.0%
5. 当日参加	7	22.6%

(2) ワークショップについてどう感じたか		
1. 非常に有益	12	40.0%
2. 有益	16	53.3%
3. やや有益	2	6.7%
4. 全く有益ではない	0	0.0%

(3) (2) のように感じた理由	
(2) の選択肢	理由
1	いまここでしか聞けないお話が聞けたからです。
2	他の先生のお話を聞いて良かったです。
2	具体的だったため
2	一般質問であった、学生の不安を取り除くことでより集中して研究ができるという話が参考になった。
3	著名な先生の実体験を聞いてよかった。
2	現状での問題を共有できた
2	トークが面白かった。とくに、栗川さんの面白かった
1	議題が明確で、問題点もよく伝わりました。
1	研究職関係なく、育児をしている先輩方の話を聞くことができ、非常に有益だった。自分の将来の進路だけでなく、人生のイベント(結婚、出産など)にも不安がたくさんある学生にとって、とても前向きになれるセミナーだった。
2	共働きの状況での男性からの経験談を聞けたから 自分も似た寿王教なので共感できることが多かった
2	研究者のパーソナルな面が多くみられて興味深いランチョンでした。文科省の頑張りに対して大学の事務の頑張りが足りないのかとつくづく思いました。
2	同じような状況の方が多く、大変なのは一緒だと思いました。
1	生の声が消えるのは大事
1	学生のみですので、あまりこういった育児との両立の話聞く機会がなかったので、非常に面白かったです。若手の学生に対するヒアリングの仕組みを知れてありがたかったです。
2	先人の経験の一例を知ることができて良かった。
1	知らなかったり考え付かなかったことを聞けたから
2	将来自分がどのように生きていくかを考える上で、実際に経験者のリアルな話を聞いて参考になると思ったからです
2	中戸川先生の私生活のバックグラウンドを初めて知りました。
1	研究者の育児というリアルな話を聞いて良かった。
3	参加者に子育て世代が少なかった。参加者が増えるようにPRするのが良いと思う。
1	リアルな話が聞いて良い勉強になりました。子育てしながら研究をしている若手の姿に励まされました(確かにお二人とも恵まれた例かもしれませんが)
1	自身は研究者として今後を過ごすわけではありませんが、そういった方々と触れる機会は多いので、有意義でした。理解が深まりました。

(4) ワークショップの構成・司会進行・時間帯等に関する意見	
	良かったと思います。
	広報の不足を感じました
	良好
	良かった
	わかりやすく、言いにくいことも話しやすい雰囲気をうまく作って会場からの声も拾いやすくしていたと思います。
	若い人の参加が少なかった 若手の会の人の参加をお願いするとか何かアクティブな働きかけが必要
	司会進行が良かった
	今回の形式でバランスよく進んだと思います。
	とても良かったです。
	想像していたよりラフな雰囲気で、食べやすくて効きやすい世間話のような発表もあって良かったです。質問も最後のパネルディスカッションにまとめていただけ他ののが急かす雰囲気ではなくありがたかったです。
	視界がスムーズでとても良かった。
	前もって進行の論点が整理されていて良かった。進行はこれまで参加したうちで一番良かった。
	良かったです。

	素晴らしい。ありがとうございました。
	中野さん司会上手ですね。話の振り方とか、グジョブです。
	若い世代の方々にも聞いていただきたい内容でした。参加者が少なめでしたのが残念でした。
	全体に緩い進行でしたが、このランチョンはこれで良いと思います。パネルディスカッションの司会の方はなかなかうまく話を進められていたと思います。
	非常にスムーズで、質疑とのバランスも良かった。

(5) 男女共同参画に限らず、ご自身のキャリア形成で悩んでいる点があればお聞かせいただきたい	
	研究と教育と家庭のバランスが難しいと感じています。
	無し
	なし
	妻、子供のことを考えるといつかは定住しないと思っているが、都合よくポストがあるか、研究成果が出るか、というのがあります。
	博士(PhD)の社会的地位が他の多くの国と比べて低いと思う。出口戦略や経済支援はとても重要だが、博士号の数のみを増やす方針だけでは日本の科学力の底上げにはつながらないと思う。
	修士で、博士に進むか迷って就職しました。今、1年目ですが、結局博士に進むことにしました(社D)。これから、25-30歳の間でライフイベントと、自分のやりたいことのバランスをどう取るのか、どう折り合いを私がつけていけるのか、不安です。また、社Dは会社とアカデミアの板挟みで、PhD取得後のビジョンもどう取っていくかが難しいですね(これは個人的な問題ですが。。。)
	研究(アカデミア)に残る限り、立場や金銭面など、安定しない。人気など、学歴に対して低収入など、とにかく安定が欲しい。
	家から通える範囲にポジションを見つけられない。家族への責任も果たしたいが地方へ行く選択肢しかないと思う。

(6) 男女共同参画推進・若手研究者育成委員会ワークショップではどのようなテーマを取り上げて欲しいか	
	結婚 出会い
	キャリア形成
	学生や若手をいかに研究に取り込むか。キャリアパス。博士人材の民間での活躍。
	博士のキャリア 育休のリアル ポスドクのリアル
	ライフイベントに伴って研究を辞めてしまったケースの話も聞いてみたいです。ネガティブなイメージではなく、研究だけがキャリアでないというイメージを多くするのも必要と思います。
	ジャーナルエディターの招待
	実際の問題とその対策
	子育てで苦労した方の話もお聞きしたい。
	企業での研究者とアカデミアの研究者を経験したヒトの体験談
	様々な立場の研究者の意見を聞く機会

(7) 男女共同参画推進・若手研究者育成に関する細胞生物学会としての取り組みとして、ワークショップ以外にどのようなことが必要か	
	若手の会との連携。需要があるなら、若手からの質問、助言を受けられる仕組みづくり。
	研究者の活動としては年一回のワークショップ開催で十分だと思います
	育児しながらの研究(仕事)のしやすさは、その組織の理解が必須だと思います。現在のラボのPIなど、組織の長に対して育児に対する率直な意識調査をしてみると面白いかと思います。
	細胞生物学会は子連れOKの学会として、もっと子連れで出張してくる会を目指しては?
	文科省との意見交換

(8) 属性		
1. 学部生	1	3.6%
2. 大学院生	5	17.9%
3. PIでない大学教員・研究員 (任期あり)	7	25.0%
4. PIでない大学教員・研究院 (任期なし)	4	14.3%
5. PI	9	32.1%
6. その他・企業	2	7.1%

(9) 年齢層		
1. 10代	0	0.0%
2. 20代	7	25.9%
3. 30代	5	18.5%
4. 40代	3	11.1%
5. 50代	9	33.3%

6. 60代	3	11.1%
7. 70代	0	0.0%

(10) 性別		
1. 男性	18	66.7%
2. 女性	9	33.3%
3. その他	0	